

尼崎の始まり

尼崎はいつ、どのようにしてできたのでしょうか？ 昔の人々は生活の大部分を、自然の恵みに頼って生きてきました。ですから、どんな場所にどう住むかは、生きていく上ですごく重要なことでした。また、現在と大昔では尼崎の地形は大きく違います。ですから、尼崎の始まりを語るには、まず地形や地勢の移り変わりを調べていくとよいでしょう。尼崎の地形は大きく5つに分けられます。



★伊丹台地…土地が隆起（盛り上がること）し続けてできた台地

★武庫川の沖積平野…武庫川が運ぶ土砂が堆積〔たいせき〕してできた平野

★猪名川の沖積平野…猪名川が運ぶ土砂が堆積〔たいせき〕してできた平野

★海岸平野…地球的規模の気候寒冷化で北極や南極の氷が拡大した結果、海水面が低下。かつては海底だった所が徐々に陸になってできた平野。（海退）

★人工埋立地…山を削った土砂などで、海を人工的に埋め立ててできた土地

20万年前は、海面も今より100メートル以上低く、大阪湾も陸地でした。日本とユーラシア大陸も陸続きだったので、ゾウも人間も大陸から歩いて渡ってきたようです。大鳴門橋の工事では海面下40mの地層で石器が出土しています。したがって大阪湾の海底にも多数の遺跡が謎めいたように眠っているはず。私たちが知り得る歴史の出来事はいまだに全体の一部に過ぎないようです。



足跡が謎めいたように眠っているはず。私たちが知り得る歴史の出来事はいまだに全体の一部に過ぎないようです。

伊丹台地も約12万年前頃までは長尾連山より南は浅い海で、猪名川や武庫川、天神川などの土砂の堆積によって形成されました。6千年前は、図にあるように生駒山のふもとや吹田付近まで、尼崎では阪急神戸線より南側は海でした。

<参考資料>

Wikipedia「伊丹台地」

図説尼崎の歴史 web版

apedia「地質」